



**最優秀賞**

**新潟県 上越遊技業組合**

「子ども安全パトロール作戦」事業



(右)新潟県遊技業協同組合理事長

堀川三雄さん

(左)上越遊技業組合組合長

三井慶昭さん

**選考理由**

社会貢献活動審査委員会 委員  
松尾守人氏



支部組合エリアの刑法犯の発生数が県内ワースト3位という状況を背景に立ち上げられた「子ども安全パトロール」は、地域における今日性と共に、その活動報告により警察を通じて危険箇所の改善などの成果をあげ、市民との連帯も強化されて高い評価を得ている。

20店舗が70人を出して持ち回りで実施する人件費負担等の労も多とするが、直接参加して汗をかくことによる会員のモチベーションアップが大きい。

マンネリ化しない努力工夫を期待したい。

地域一丸となって子どもたちを犯罪や



磁気ステッカーを貼った車でパトロール活動

テレビや新聞などのマスコミで連日報道される、悲惨な事故や不可解な事件。なかでも子どもが巻き込まれる犯罪は、被害にあった子どもの将来ということを考えても看過することができない。子どもたち自身が加害者となるケースも含め、それらの犯罪を未然に防ぎ、子どもたちの安全を守っていくことは、社会や地域の大人たちに課せられた使命ともいえる。

新潟県遊技業協同組合傘下の上越遊技業組合(組合員ホール20店舗)では、2006年(平成18年)10月から上越地域に所在する55校の小学校を対象に、周辺および通学路を中心としたパトロール活動を実施し、安全で安心な地域社会の実現に向けた取り組みを行っている。「子ども安全パトロール作戦」と命名された事業の背景について、上越遊技業組合の三井慶昭組合長は、以下のよう

に語る。「常日頃から、子どもの教育を学校任せにし過ぎているのではないかという個人的な思いがありました。同様に、犯罪については警察任せ。やはり、本来は家庭、学校、地域社会が一体となって子どもたちを見守り、導いていかななくてはなりません。しかし、子どものことは学校に丸投げし、何かあれば理不尽な文句ばかり並べるモンスターペ

# 事故から守るのが大人の責任



2006年スタート時の出発式の模様

アレントがはびこっているのが現在の風潮です。これでは、学校の先生方にあまりにも多くの負担がかかってしまい、そのために病気になったり休退職する先生もいると聞いています。そこで、われわれパチンコ業界も地域社会の一員として、子どもたちに対する犯罪を対岸の火事と思わず、積極的に子どもを守っていこうというのが、この事業の目的です」

事業の具体的内容としては、月、水、金の週3日、各組合員ホールの担当70名が持ち回りで下校時間帯の15時～16時30分にかけて、6地区にエリア分けされたパトロール区域を車で巡回する。特に不審者情報のあった場所や各小学校から要請があった場所は重点的に確認する。また、途中で子どもたちに声かけをしたり、交通安全上の危険箇所をチェックしたりといった活動も併せて行っている。パトロールにはユニフォームとなる帽子、ベストを着用し、車には「パトロール実施中」の磁気ステッカーが貼られる。パトロール後は随時、活動報告書に記入し、組合長までファックスで送付することになっている。なお、パトロールで使用する車両の燃料費などは、すべて参加組合員ホールの自己負担である。

事業開始に先立って、まず各小学校を回り、通学路、過去の事件発生、パトロール場所・時間帯などの要望事項を聞き取り調査するという綿密な準備を行い、また実施にあたっては、支部管内の上越警察署、教師、PTA関係者、自治会などにも協力を仰いでいるという。まさに地域をあ



出発式で関係者が集まってテープカット



パトロール時にかぶるお揃いの帽子

げでの取り組みに発展していく可能性を感じさせるが、事業開始までスムーズに事が運んだというわけではないと、三井組合長は言う。

「諸般の事情で挫折しかけたこともあり、構想から2、3年はかかりました。やはり、組合員のみなさんに理解していただくことに時間がかかりました。というのも、昨今のパチンコ業界の経営環境は大変厳しいものがあります。特に社員の雇用について、組合員ホールでは人員削減を余儀なくされ、ぎりぎりの人数で運営しているのが実状です。そんななかで子ども安全パトロールへ人員を出すことは、各ホールにとって大きな負担があります。しかし、粘り強く説得を繰り返すことで、この事業の趣旨を理解していただき、実行に移すことができました。組合員のみなさんには本当に感謝しています」

子ども安全パトロールの効果だけとは言い切れないが、事業開始後、上越署管内の刑法犯の発生や児童に対する不審な声かけ事件も減少傾向にあるという。地域を挙げて子どもたちを守っているという姿勢を示すことが、少なくとも子どもたちをターゲットとした犯罪の抑止力として働いていることは間違いないだろう。今後は、パトロール員の意識が中だるみにならないよう定期的に集まり、この事業の社会貢献性を話し合ったり、組合員の安全・安心に対する意識の高まりに努めたいという。